

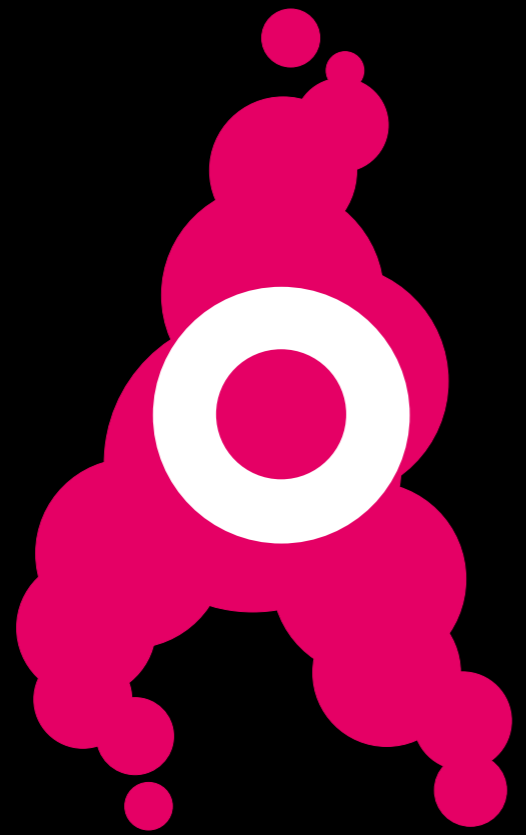
「愛」に來い。「知」を語れ。日本ど真ん中広告会議

第62回全日本広告連盟名古屋大会

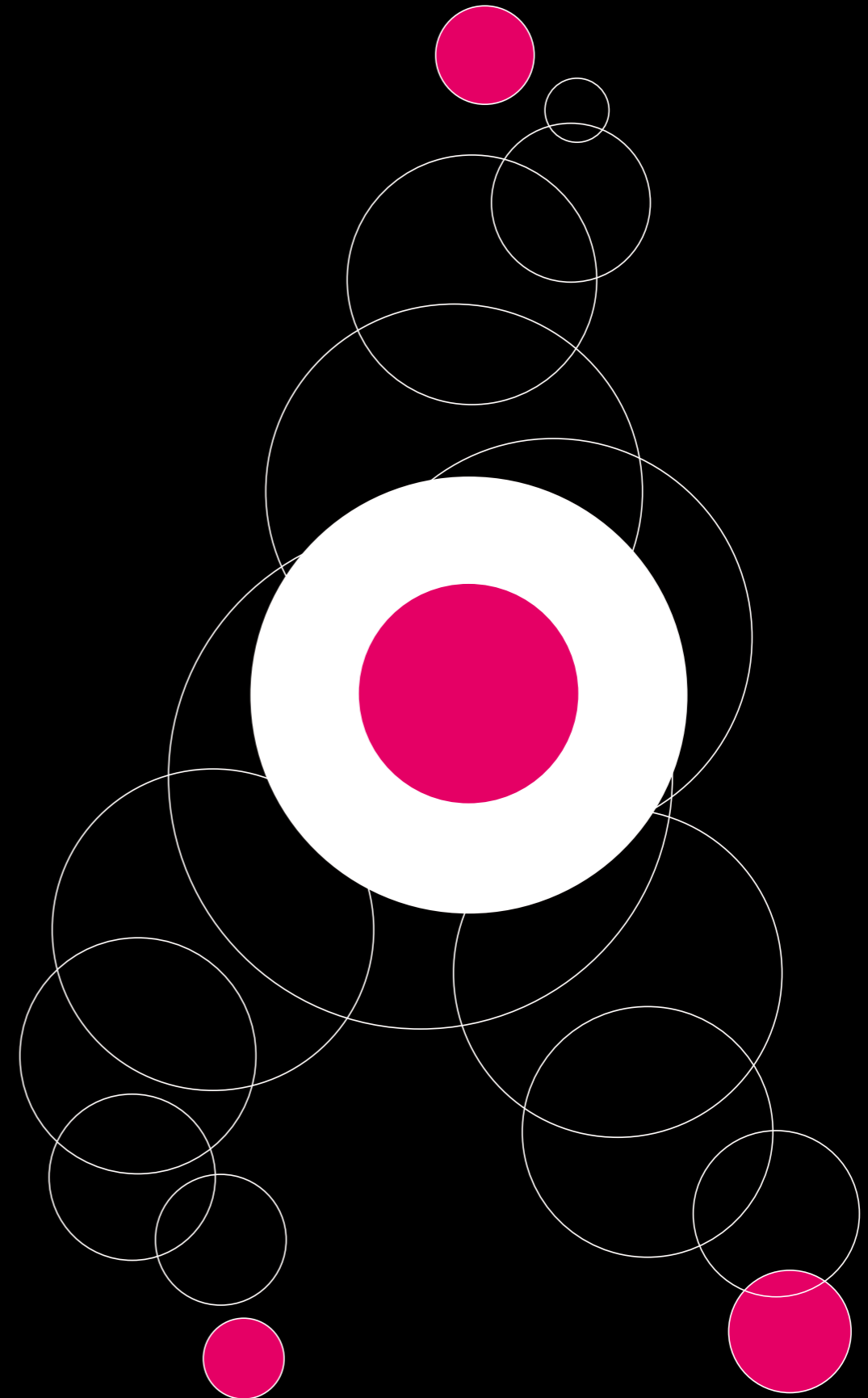
●発信しよう。ものづくりの地から、ものがたりのチカラ●

主催／第62回全日本広告連盟名古屋大会組織委員会・公益社団法人 全日本広告連盟

| 大会報告書 |



2014 NAGOYA



第62回全日本広告連盟名古屋大会事務局

〒460-8511 名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 中日新聞社3F

TEL052-221-1882(直通) FAX052-221-1088 E-mail: jimukyoku@aichi-ad.or.jp

第62回全日本広告連盟名古屋大会 概要

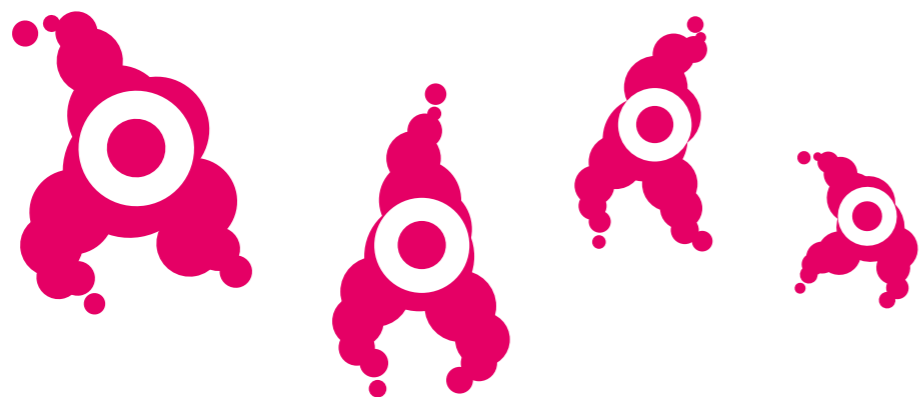
日時 | 2014年5月14日(水) 9:00 -
会場 | 大会式典・記念講演 / 名古屋国際会議場 (センチュリーホール)

愛知・名古屋は、自動車や陶磁器産業など世界に誇る“ものづくりの地”であるとともに、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑に代表される戦国武将や様々な芸事を生み出した歴史ある“ものがたりの地”。



名古屋国際会議場

第62回全日本広告連盟名古屋大会では、ものづくり・愛知のポテンシャルを、広告コミュニケーションというものがたりのチカラを通して発信いたしました。



■大会スローガン

「愛」に來い。「知」を語れ。日本ど真ん中広告会議
～発信しよう。ものづくりの地から、ものがたりのチカラ～

■大会スローガン・コンセプトコピーについて

愛知を意識したインパクトのあるスローガンに、大会のコンセプトを表現したコピーを付加しました。
制作 / 大会スローガン: (株) 大広名古屋支社 戸谷吉希、コンセプトコピー: (株) 電通中部支社 岡部将彦

■大会ロゴマークについて

浮き上がる「愛」と「知」のエネルギーを集め、生きもののように踊るA (=Aichi, Advertising) を表します。
その中心には、広告と向き合う人の目を象徴する形を置きました。デザイン / 伊藤豊嗣 (グラフィックデザイナー)



大会プログラム

| オープニング

センチュリーホール

9:30 -

| 大会式典

センチュリーホール

9:40 - 11:05

1.開会宣言:
第62回全日本広告連盟名古屋大会組織委員会
実行委員長 大島 寅夫

2.歓迎挨拶:
第62回全日本広告連盟名古屋大会組織委員会
大会会長 岡谷 篤一

3.大会挨拶:
公益社団法人 全日本広告連盟
理事長 大平 明

4.来賓祝辞:
愛知県知事 大村 秀章様
名古屋市長 河村 たかし様

5.第8回全広連鈴木三郎助地域賞・大賞贈呈

6.第2回全広連日本宣伝賞贈呈

7.次年度開催地紹介と挨拶

| 記念講演

センチュリーホール

11:20 - 12:20

演題:「トヨタのものづくりとものがたり」

講師:トヨタ自動車株式会社
名誉会長 張 富士夫 氏



| 昼 食

レセプションホール
白鳥ホール

12:30 - 13:30

| 愛知のチカラ

体感セミナー

愛知県内各所

13:30 - 17:00

ものづくりコース

①トヨタ博物館
(愛知県長久手市)

②三菱重工業(株)
名古屋航空宇宙システム製作所飛島工場
(愛知県飛島村)

③リニア・鉄道館
(名古屋市港区)

④パチンコミュージアム正村資料館
(名古屋市天白区)

ものがたりコース

⑤徳川美術館・徳川園
(名古屋市東区)

⑥名古屋城本丸御殿・名古屋城能楽堂
(名古屋市中区)

⑦名古屋市科学館
(名古屋市中区)

⑧「アド・ミュージアム名古屋」+市内散策 (26P参照)
(名古屋市中区)

| 懇親会

名古屋観光ホテル

18:00 - 19:30





歓迎挨拶

第62回 全日本広告連盟名古屋大会組織委員
大会会長 岡谷 篤一

本日は日本のど真ん中、愛知・名古屋にお越し頂きまして誠にありがとうございます。
全広連名古屋大会の開催は、昭和50年以来39年ぶり4回目の当地開催となりますが、今大会の参加者は62回の全広連大会史上最多の1600名を超えることとなりました。全国37の広告協会の会員・関係者のご尽力に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

私は昨年、名古屋商工会議所会頭に就任し、はからずも昨年の12月から愛知広告協会会長を拝命いたしました。その初仕事が全広連名古屋大会の大会会長でございます。そして、本日は私の古稀の誕生日でして、これも何かのご縁とこのたびの大役を務めさせて頂く次第でございます。

名古屋大会開催については、2年半前から準備を開始いたしました。愛知・名古屋と広告コミュニケーションのパワーとポテンシャルを発信し、また開かれた全広連大会として広告関係者だけでなく広告の中心にある一般生活者にも広告のパワーを発信する大会を目指してきました。

愛知・名古屋は歴史のある街でございますし、とりわけ戦国時代以降はこの地が起点になり、日本の近代化がスタートをしたところす。また、近代以降はまじめで実直な県民性とあいまって木工技術を起点とする緻密なものづくりが発展し、セラミックや機械・自動車そして現在は航空機・ロケットの生産拠点という「ものづくりの街」となりました。これらの思いが今大会のテーマである『「愛」に來い。「知」を語れ。日本ど真ん中広告会議 ～発信しよう。ものづくりの地から、ものがたりのチカラ～』という大会スローガンのコンセプトになっております。

今大会ではその愛知・名古屋の神髄を全国からご参集頂いたみなさまに体感して頂くと同時に、広告の「知」を語り合っ頂き、その広告のパワーから日本の元気が進んでいくことを祈念いたします。どうかゆっくりと愛知・名古屋の地をお楽しみ頂ければ幸いです。



大会挨拶

公益社団法人 全日本広告連盟
理事長 大平 明

本日は大変お忙しい中、全国各地よりこのように大勢の皆様方に第62回全広連名古屋大会にご参集賜り心から感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。

今大会に向けて万全の準備を進めてこられました大会組織委員会、そして愛知広告協会をはじめとする関係者の皆様方に対して心から御礼を申し上げる次第でございます。誠にありがとうございました。

さて、全広連は昨年、全広連創設メンバーの一員でもございます愛知広告協会とともに創立60周年を迎えることが出来ました。

新生、全広連の一步を踏み出す本年、39年ぶりにバイタリティに溢れる名古屋の地で全広連大会が開催されますことを大変嬉しく存する次第でございます。

本大会のテーマ『「愛」に來い。「知」を語れ。日本ど真ん中広告会議 ～発信しよう。ものづくりの地から、ものがたりのチカラ～』には、名古屋から改めてコミュニケーションの力を全国に発信しようとする熱いメッセージが込められていると伺っております。

日本の経済が徐々に上昇気流に乗りつつある今、国内製造業を牽引する名古屋の地で、ご参加の皆様方と新しい時代の広告コミュニケーションのあり方について意見を交換し、そして全国各地で色々な産業、新しい産業を元気づける活動の拠点になれば、この大会は大変意義のあるものになると感じます。

また、この機会をぜひ利用して名古屋の深い文化とそして歴史など、いっぱい魅力がございますのでそれをみなさまとともに感じ、そして帰りたいと思っております。

公益社団法人に移行しまして3年目を迎えました全広連は、今年度の活動目標を「広告の元気は日本の元気」を掲げ、広告の力を最大限に発揮し、積極的に事業に取り組んでまいります。今後とも関係各位の益々のご支援とご協力をお願い申し上げます。また、本日ご参集の各地区広告協会の皆様方の益々のご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



来賓祝辞

愛知県知事 大村 秀章 様

第62回全日本広告連盟名古屋大会が、こうして盛大に開催されますことを心からお慶びを申し上げます。また全国各地からお集まりを頂きましてご参加頂きました皆様方に地元を代表いたしまして心から歓迎を申し上げます次第でございます。

岡谷会長、そして大島委員長、そしてまた大平理事長様からお話がありましたように、わが愛知・名古屋は日本一の産業県を自負しております。特に製造業については、工業出荷額は昨年、リーマンショック以来ようやく40兆円の大台を回復しまして41兆円というところまでできました。この半分は自動車、輸送機械です。さらに、工作機械も日本一です。また、陶磁器・瓦をはじめとする窯業、それから繊維産業、そしてまた食品製造業も北海道と1位・2位を争うということで、まさに産業の集積をここに見るわけでございます。

さらに近年では、航空宇宙産業にも力を入れています。日本初のビジネスジェットMRJのプロジェクトも今、着々と進んでおります。付加価値の高い製造業をさらに発展をさせ、日本経済を引っ張っていききたいと思っております。

また、これから十数年後2027年のリニア中央新幹線開業プロジェクトも着々と進んでおります。東京～名古屋が40分で結ばれます。これは地下鉄の時間距離です。首都圏と中京圏、合わせて人口5000万人が40分で結ばれるという、世界でも例を見ない大交流圏ができるわけです。そういった中でこの日本のど真ん中、この愛知・東海そして中京圏がさらに日本経済を引っ張っていけるように頑張っていきたいというふうに思っております。

そういう中で今日お集まり頂きました、各新聞・テレビなどのマスコミ関係の皆様方、引き続き日本を大いに支え、引っ張って頂きますように、ご祈念、ご期待を申し上げたいと思っております。



来賓祝辞

名古屋市長 河村 たかし 様

どえりゃーぎょうさんの方が、名古屋に来てちょーでやあて、ありがたいことでございます。

昨日、一昨日の中日新聞を見ますとこの大会のための新聞みたいになっていました。金ピカの印刷でどえりゃーもんですわ。まあそこに名古屋の歴史などが書いてありますのでぜひご覧頂きたいです。

近くに熱田神宮があります。この熱田神宮の本殿は、ご神体である「草薙の剣」を防空壕に移した次の日に、空襲されております。ちなみに草薙の剣は、壇ノ浦に沈んだと言われておりますけど、実は本物がこの熱田神宮に祀られていると言われておりますので、ぜひ行ってみてください。

名古屋城も、昭和20年5月14日、終戦の3か月前に空襲にあい焼けてしまいました。いま行って頂くとコンクリート製の天守閣が建っています。実は詳細な実測図が残っておりまして、私はそれをもとに「木造復元しろ」と言っています。実は、戦前の国宝1号って名古屋城だったんです。それを400年かけて「もう1回国宝にしよみやあ」と言っているんです。

もうひとつ、名古屋城には本丸御殿というのがありますが、空襲で焼けました。これも残された詳細な実測図をもとに、今復元しております。いわゆる「本物復元」です。この御殿にあった障壁画が実は残っています。旧来の材料・工法で400年前のものです。先ほど言いました空襲の直前に先人が避難させてくれていたわけです。これを年間1～2週間ほど復元された本丸御殿に飾ってはどうか、と言っております。

本当に今や日本を引っ張るとするのはこの名古屋・愛知でございます。ウェルカム名古屋&エンジョイ名古屋ということで、いろんなどこに行って頂きまして、名古屋の魅力を大いにお伝え頂ければと思います。本日はありがとうございました。サンキュー・ベリーマッチ。

第8回 全広連鈴木三郎助地域賞・ 第8回 全広連鈴木三郎助大賞 贈呈

全広連鈴木三郎助地域賞

◇最優秀賞／清香園(株式会社プラスマインドオフィス)様

- ・「ニックとライス」[TVCMシリーズ]
- ・長崎広告協会

◇優秀賞／石巻赤十字病院様

- ・「石巻赤十字病院で働く」[ポスター]
- ・仙台広告協会

◇優秀賞／大分県様

- ・「大分県／おんせん県って言っちゃいましたけん!」
- ・キャンペーン[TVCM]
- ・大分広告協会



優秀賞／石巻赤十字病院様



優秀賞／大分県様

全広連鈴木三郎助大賞

◇大賞／AICHI SAFETY ACTION事務局様

- ・「AICHI SAFETY ACTION」
- ・一般社団法人 愛知広告協会

◇選考委員会特別賞／熊本県広報課様

- ・「～赤いけん!ウマイけん!くまもと～
- ・(くまモン ほっぺ失踪事件)」
- ・福岡広告協会

◇選考委員会特別賞／株式会社新潟日報社様

- ・「2011～2013いのちを話そう。」キャンペーン
- ・新潟広告協会



大賞／AICHI SAFETY ACTION事務局様



選考委員会特別賞／熊本県広報課様



選考委員会特別賞／株式会社新潟日報社様

受賞者代表謝辞

全広連鈴木三郎助大賞

AICHI SAFETY ACTION事務局
「AICHI SAFETY ACTION」

事務局幹事 小出 宣昭 様
中日新聞社 代表取締役社長



全広連・鈴木三郎助大賞という名誉ある賞を頂き、本当にありがとうございました。
「AICHI SAFETY ACTION」を聞いた時には、「交通死亡事故防止キャンペーン。新聞6社、ラジオ4社が寄って、手垢のついたテーマを選んだなあ」というのが正直な私の実感でありました。ところがその後の展開は、素晴らしいものでありました。我々は広告という手段を用いて、新しい文明のテーマを提供しております。車もそうです。広告とコマーシャルを見た様々な人々が車を買ひ、本当に素晴らしい便利なものだと、楽しい生活を実現しているわけですが、その反対側にある影というのが交通事故、交通死亡事故です。愛知県では全国でワーストワンであるというのが、10年間も続いた。その愛知県で新聞を発行している新聞6社と、ラジオ4社が、共に手を携えて立ち上がった。ここにこそ私は今回大賞を頂いた大きな意義があるのではないかと思います。

これからの広告というのも、光ばかりではなくて、必ずその反対側に出来る影の部分もしっかりとらえながら、みなさんに提供していく。交通事故の被害者も加害者も全て新聞の読者であり、ラジオのリスナーであります。そういった方々のためにも、影の部分を中心に少なくする。日本一の工業県であるということは、その裏側にこの影があるということを見据えて取り組んだ、その結果が今回大賞受賞に至ったと思うと、非常に深く感激しております。これからも我々は各社の枠を乗り越えて、そうした社会問題、時代の影の部分も十分くみ取りながら歩んでいきたいと思っております。



第2回 全広連日本宣伝賞 贈呈と受賞謝辞



◇松下賞

大和ハウス工業 株式会社
代表取締役会長兼最高経営責任者
樋口 武男 様

この度は誠にありがとうございます。この場を借りて、大和ハウス工業のコミュニケーション活動にご尽力頂きました広告会社の皆様、メディアの皆様、その他多くのパートナー企業の皆様に心よりお礼申し上げます。

我が社は人、街、暮らしを繋ぐ新しい価値をお客様とつくり、活かし、高める総合生活産業として、社会が必要とするかどうかを基準に幅広い事業に取り組んでおります。

そのため、コミュニケーション活動においても、販売を目的として特定の事業をPRするのではなく、経営の基盤である、グループのシンボルであるエンドレスハートの社会的価値の向上や、大和ハウスという社名の認知、そして我が社の理念やビジョンを理解して頂くためのコーポレートコミュニケーションに主眼を置いております。それが企業への共感、そして信頼を醸成することになり、結果的に幅広い事業全体の支援にもつながります。

『面白いテレビCMが会話のきっかけになり、営業担当との商談が弾んだ』、『イベントでの社員での対応に好感が持て、会社の信頼度が高まった』。このような言葉を、一件でも多くのお客様から頂戴することがコミュニケーション活動の目的であり、これからも真摯に取り組んでいきたいと考えております。

(代読: 山本誠取締役常務執行役員 様)



◇正力賞

株式会社 スタジオジブリ
代表取締役プロデューサー
鈴木 敏夫 様

先ほどの中日新聞の小出社長のごあいさつに、感動しました。「風の谷のナウシカ」をやろうとした時のことを思い出したから言うのですが、宮崎駿と二人で話しながら、やろうとしたテーマは、まさに先ほど出ていました「光と影」なのです。光のあるところに影がある、これがテーマでした。なんかそれをちょっと思い出しました。名古屋も捨てたもんじゃなくなつて。

今回この正力賞、本当にありがとうございます。正力松太郎っていう方、ここ数年来自分でも気になっている人です。親しい方が読売新聞および日テレに多いのですよね。この正力さんっていう方、本当にいろんなことをおやりになった方で、今日、今回この話を頂いた時にね、僕本当に一切迷い無かったですね。二つ返事でした。ありがとうございました。正力さんの名前がついた賞を頂く、というのはなにか、ジャイアンツに勝った気がしたんですよね。ちょっとくだらなくて申し訳ないのですが、

どうもありがとうございました。



◇吉田賞

株式会社 大広
相談役
高野 功 様

大変名誉ある賞を頂きました。本当にありがたいと思っております。全広連の日本宣伝賞に衣替える前、日本宣伝クラブが行っていた吉田賞の選考のお手伝いをしていましたから、この吉田賞の重みは十分理解しているつもりです。

ですから、最初受賞のお知らせを受けた時、嘘でしょうと、私ごときが頂ける賞ではない、と本気でそう思いました。でも今日ここにこうやって立っているわけですから、私自身自身のことを非常に運の強い男だと思っております。

この業界にお世話になって46年経ちますけれども、仕事と一緒に汗をかけた同僚、仕事仲間、制作会社の人たちに恵まれました。これも大変運がよかった。また、いろんなことを教えてくれた先輩諸氏、それからメディアの方々にも恵まれました。これも非常に運がよかった。

何よりも様々なチャンスを与えてくださったクライアント企業の、本当に良い方々にもたくさん出会いました。会社としてもたくさん色んなチャンスを頂きました。

だから、私は今ここで、46年間仕事で出会った全ての方々に、改めて深く、深く感謝申し上げます。



◇山名賞

美術家
横尾 忠則 様

山名賞を頂いたことに驚いております。山名文夫氏と言えば、僕が20代のはじめにデザイナーになった時に初めて知った著名なデザイナーで、資生堂の女性の顔を得意とするイラストレーターでもありました。その表現はどことなくヨーロッパのアーヌーボースタイルの影が投影されていて、実に洒落た都会的な作品を得意とする大先生で、僕は一度くらいで挨拶をしたことがあるような気がしています。デザイナーから画家に転向して以来、個人的なデザイナーとの交流は続いているのですが、デザイン界との関わりはすっかり途絶えてしまいました。そんな時期から34年経った今、突然デザイン界から呼び戻されたような気になりましたのが今回の山名賞です。遠くから、小さい声で呼ばれているような気がしています。もしや、気のせいではないか、幻聴ではないのかと思えるほどです。なぜ、この時期に山名賞を頂くことになったのかは、私には理解できませんが、きっとそれなりの理由があったのかと思います。なんだかデザイン界から頂く賞は、懐かしいのと同時に照れ臭くもあり、思わぬ出来事のような気がしないでもありません。

現代の美術家としての私に与えられたのか、過去の私に与えられたのか、老年には若い時のような楽しみはうんと少なくなります。そういう意味では、ふと微笑が浮かぶような賞です。早速、寝室の壁に、額に入れて賞状を飾らせて頂きます。

(代読: 天野幾雄 様)



次年度開催地 代表挨拶

第63回全日本広告連盟金沢大会組織委員会
大会会長 高澤基 様

来年、2015年の3月に北陸新幹線が金沢までやってきます。そのことも記念をいたしまして、来年の5月20、21、22日、全広連の大会を金沢で開かせて頂くことになりました。

金沢は城下町ですから、いろんな江戸時代のもが残っています。加賀百万石の城下町と言われているところは皆さんご存知の通りであります。来年、全広連大会を開くということで、『金沢発、広告のかがやきと、五感のおもてなし』をスローガンにしました。おもてなしの心で皆さんをお待ちしたいと思っています。見て、聞いて、嗅いで、触れて、味わって五感を鍛えたい。広告に携わる者は五感を鍛えなければいけないと思います。鋭い感性でもって、世の中の動きを追い、表現し、頑張っていかなければならないのです。広告の元気が日本の元気にもつながってくるということで、ぜひ金沢でお互いの五感を鍛えたいと思っています。

それから大会マークは加賀の水引を題材にしました。お祝い事があるとし袋を持っていきます。そのし袋の表には水引がかかっています。加賀の五彩で出来た水引、これをマークにしたいと思っています。親指と人差し指を丸くして、残りの三本をぴんと立てる。そして、この丸と、丸を結び、そして、ぐっと引っ張る、なかなか解けない。これは「あわび結び」と言って、輪と輪が離れないしっかりと結ばれた絆を表しています。ぜひ、金沢でみなさんと私たちの絆を結びあいたいと思っています。



式典風景



式典は、37名で特別編成されたオーケストラが全国から集う37の協会を表現、37の楽器が奏でるハーモニーが大会式典を包み、ものづくりの地から、ものがたりを紡ぎました。
協力：愛知室内オーケストラ・名古屋少年少女合唱団
作曲・編曲・指揮：沢田完



記念講演

「トヨタのものづくりとものがたり」

～必要なモノ品質高く 現場と育てた「カイゼン」～

トヨタ自動車株式会社 名誉会長 張 富士夫 氏

私は1968(昭和43)年ごろから、トヨタの生産方式を創り上げてきた大野(耐一、元トヨタ自工副社長)さんらの部下として配属され、15年ぐらい働かせてもらった。

当時、米国で高速大量生産の仕組みを確立したのがフォード。これにより自動車が高価になり、誰でも買えるようになった。先進国の製造業ではこのフォードのやり方がバイブルだった。

日本でもフォード方式の影響を受け、どれだけ大量にモノを生産できるかが求められていたときにトヨタは逆なことを始めた。日本は、少量多品種の市場なので売れる分しか、つくってはいけないという方式だ。トヨタの現場では必要数をいかに少人数でつくるかが大事だと教わった。これは理屈には合わないマスコミには「トヨタは早晚、つぶれるだろう」と書かれた。ただ大野さんは「(米自動車大手フォード・モーター創設者の)ヘンリー・フォードが長生きしていたらわれわれと同じことをやっただろう」とよく言われていた。

(創業当時の)トヨタの生産性は米国メーカーに比べ、十分の一ほど。カネも技術も設備もない。どうやって米国メーカーに追いつくのか。製造工程の中からいかに無駄を減らすかということを積み重ねていった。皆で現場に出て、これは車をつくるのに本当に必要かという視点でみると、いかに余分なことをやっているかだんだん分かってきた。つくりすぎの無駄がすごく多い。

本当に必要なものだけ、ジャスト・イン・タイムでつくる。急いでつくる必要はない。大野さんは「機械を止める」「作業員も一緒になって問題を考え、改善しろ」と。不良品

が出たらラインを止め、どこが止まったかすぐ分かるようにする。そこへ駆けつけて対策を整えて徹底的に直す。不良品だろうと、欠品だろうと、作業員の腹痛であろうと問題が発生したら、ラインを止めて問題解決を図る。それを人ベンの自働、自動化と言った。

最初のうちは反対が多かったが、段々定着し、トヨタ生産方式というものができてきた。73年に(第一次)オイルショックが起き、米国も欧州もガソリン代が高騰した。多くの人が燃費のいい小さな車に乗り換えた。トヨタ車は小さく燃費の良さが評価され、欧米でかなり売れた。その結果、貿易摩擦になってしまった。

当時米国のデトロイトで日本車をたたき壊している写真が新聞に載り、ある雑誌からは日本車が安いのは低賃金で働かせているからだなどと言われた。そういう中で、摩擦の解決策として米国に工場を建てることになった。第一号がケンタッキー州で、私はそこに赴任した。日本人が60人、米国人を3000人雇ってスタートしたが95%は(自動車製造の)未経験者で、まず地元に溶け込む努力をした。できるだけ地元企業に仕事を回す。日本人の60家族はバラバラな場所に住んで、米国人と交流を深めた。従業員が何でも言えるホットラインコールを設け、必ず答えを出して食堂に張る。入り口にはいつも人だかりができた。

アメリカには日々改善するという考え方はなかったのに、忍耐強く教えた。従業員と一緒に考え改善していき少しずつ浸透していった。そのうち「カイゼン」という言葉は英語になった。

米国のディーラーからは「米国人を使ってい車ができるのか。品質が悪い車をつくったら君たちの仕事はなくなるぞ」と言われた。店頭には日本から輸入した車と、ケンタッキー製と両方並ぶ。差があったら客は必ず日本製をくれとなるというのだ。

社内では「(国内生産拠点の)堤(つつみ)工場に負けるな」の大合唱が起きた。私は米国にトヨタ生産方式を移植したいと思っていたが、堤が目標になった。

一人一人がいいものをつくり、品質の良いものだけ次の工程へ渡すというのが、自動化の発想だ。そのため「品質に問題があったらラインを止めなさい」と言うのだが、米国ではラインを止めたら首になるという考えで、なかなか止めようとしなかった。根気強く言い続け、ラインを止めたら社長の私が飛んで行って「サンキュー」という。おかしな光景だと周りにからかわれた。

これが定着し、きちんと止めるようになったら品質がどんどん良くなっていった。従業員の品質意識が上がり、自分の工程とは無関係の不良品を見つけるぐらい、一生懸命やってくれるようになった。その結果、88年10月に一号車が誕生したが堤と品質に優劣はなかった。

私が日本に帰った94年にはケンタッキー州のトヨタ車の市場シェアは13%になり、87年の6.5%から倍増した。

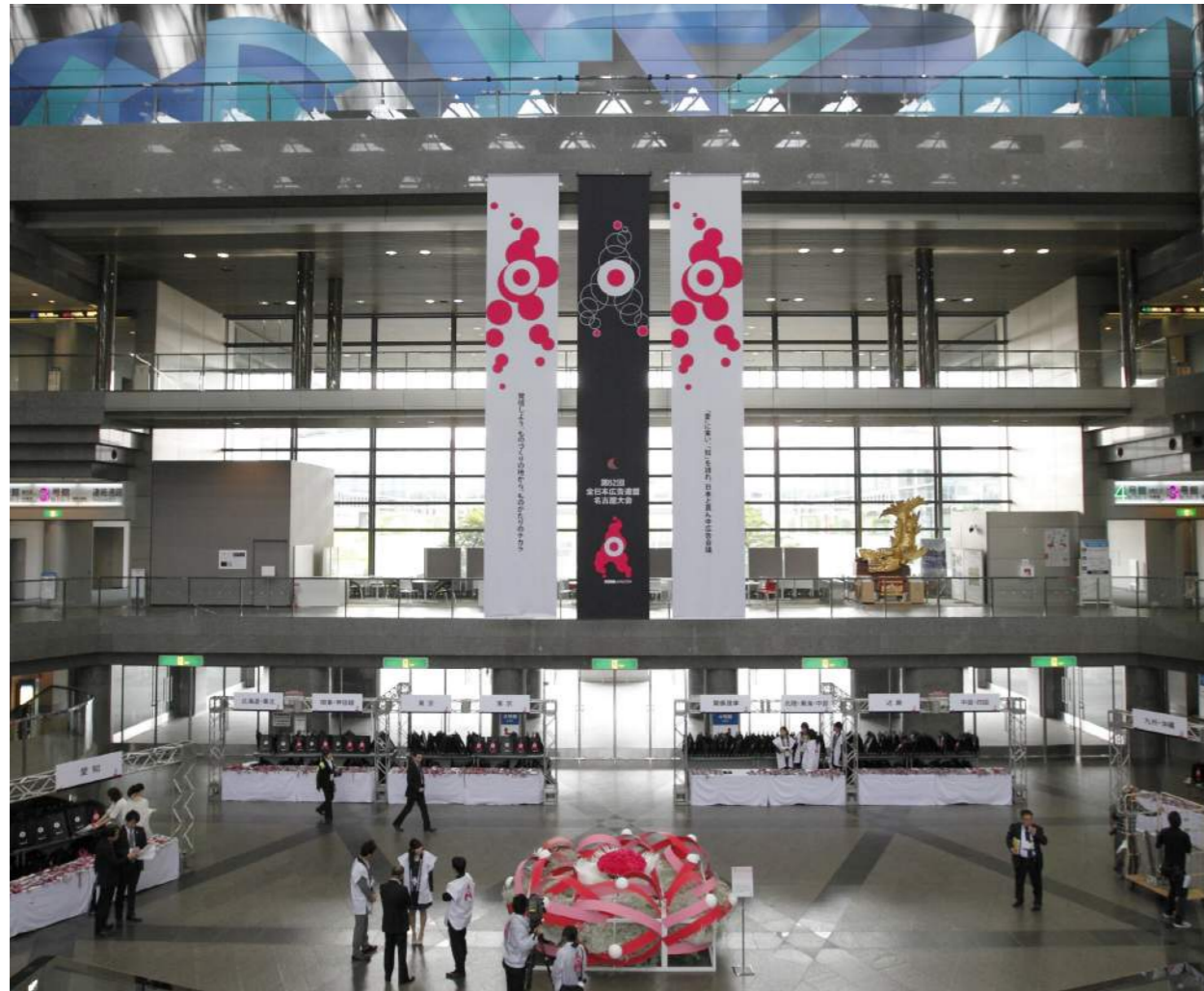
地元溶け込む。従業員との関係を築き、皆で品質の良い車を造り上げてきた。何とかトヨタ方式でやれたかなと感じている。



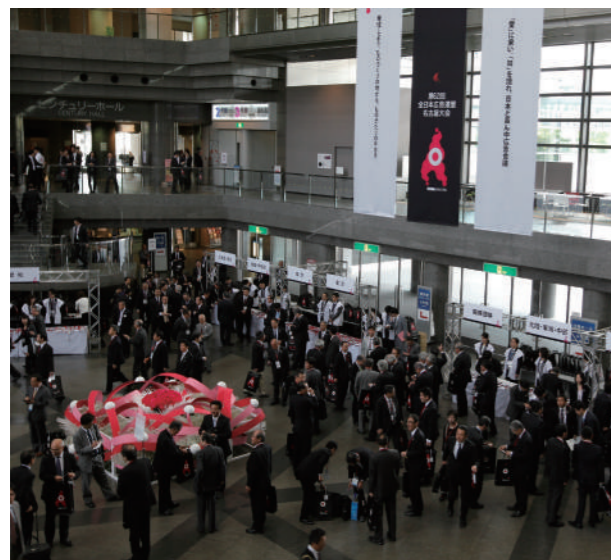
◇張富士夫氏(ちょう・ふじお)略歴

昭和35年4月	トヨタ自動車工業株式会社 入社
57年7月	トヨタ自動車株式会社に社名変更
63年9月	同社 取締役就任
63年12月	トヨタモーターマニュファクチャリング U.S.A. 株式会社取締役社長就任
平成6年9月	トヨタ自動車株式会社常務取締役就任
8年6月	同社 専務取締役就任
10年6月	同社 取締役副社長就任
11年6月	同社 取締役社長就任
17年6月	同社 取締役副会長就任
18年6月	同社 取締役会長就任
25年6月	同社 名誉会長就任

会場風景



大会式典・記念講演会場となった名古屋国際会議場メインエントランス。中央に設置された石田流のいけばなが皆様を出迎えました



全国各地から過去最高となる1600名の方が参加されました



石田流のいけばな テーマ:「花の輪 人の和」花作人:石田流次期家元 石田巳賀



第8回「全広連鈴木三郎助大賞」受賞の『AICHI SAFETY ACTION』を展示



昼食会場では皆さま語りながら愛知・名古屋の味をご堪能頂きました



物産コーナーでは地元の特産品や名物をご覧頂きました



記念講演には一般の方300名にもご参加頂きました



会場ホワイエに並べられた新聞各紙を読み比べて頂きました



可変印刷機により1部1部異なる印刷が施された新聞も。担当者が説明を行いました



昼食では「名古屋の恵み弁当」をテーマに6種類のお弁当をご用意

愛知のチカラ体感セミナー

セミナー一覧

ものづくりコース

- ① トヨタ博物館
(愛知県長久手市)

- ② 三菱重工業(株)
名古屋航空宇宙システム製作所飛島工場
(愛知県飛島村)

- ③ リニア・鉄道館
(名古屋市港区)

- ④ パチンコミュージアム正村資料館
(名古屋市天白区)

ものがたりコース

- ⑤ 徳川美術館・徳川園
(名古屋市東区)

- ⑥ 名古屋城本丸御殿・名古屋城能楽堂
(名古屋市西区)

- ⑦ 名古屋市科学館
(名古屋市中区)

- ⑧ 「アド・ミュージアム名古屋」+市内散策 (26P参照)
(名古屋市中区)



[ものづくりコース]

- ① トヨタ博物館
車の歴史を学び、人と車の未来を体感。

◇参加者174名
 ◇「不朽の名作、クラシックカーが走行披露」
 ◇トヨタ自動車株式会社が創立50周年を記念して1989年に設立された「トヨタ博物館」。こちらでクラシックカーの走行披露と、数多なクラシックカーや特別車が格納された一般非公開のバックヤードを見学する特別セミナーを実施しました。特に参加者に好評であったのは、クラシックカーの走行披露。小さい頃、憧れであった車種や写真でしか見たことがないクラシックカーが目の前を走りました。ボンネットから響く独特のエンジン音とともに車輪が動き出すと自然と参加者から歓声が上がりました。

◇トヨタ博物館到着後、布垣館長による施設紹介
 →トヨタ博物館(自由見学)→バックヤードの見学
 →クラシックカーの走行披露→帰着



[ものづくりコース]

- ② 三菱重工業(株)
名古屋航空宇宙システム製作所飛島工場
「航空宇宙産業特区」愛知を体感。

◇参加者37名
 ◇「一般非公開、ロケット機工場見学」
 ◇全国でも有数の航空宇宙産業の集積地である愛知県。航空機やロケット開発においては世界トップレベルの技術を誇る、三菱重工業株式会社の一般非公開の飛島工場を限定40名で見学しました。日本の基幹ロケットの組み立て現場や民間機の製造風景を従業員の説明のもと、世界が待望する宇宙産業の最前線を特別に体感できたセミナーとなりました。特に、ロケットの開発・組み立ての現場は、重要機密事項。外部の方には、滅多に実物を見ることができない代物ですので、終始興奮冷めやらぬ見学となりました。

◇三菱重工業 飛島工場到着後、布施工場長によるレクチャー→民間機工場とロケット機工場との2班に別かれて見学→布施工場長との質疑応答→帰着



[ものづくりコース]

- ③ リニア・鉄道館
「高速鉄道技術の進歩」を体感。

◇参加者138名
 ◇「見て、触れて、乗れる。迫力の鉄道車両」
 ◇2011年に金城ふ頭にオープンしたJR東海の鉄道博物館、リニア・鉄道館で、のべ39両の時代を彩った鉄道車両を鑑賞。特別セミナーでは、鉄道やリニアの歴史を紐解き、社会に与えた影響を金子館長によりご説明頂きました。特に、館内での鉄道ジオラマの食いつきが強く、全国の主要都市を網羅したジオラマで地元の地を探したり、新幹線目線で全国旅行を楽しみながら、日本の大動脈である鉄道をご体感頂きました。

◇金子館長による特別講演(名古屋国際会議場141・142会議室)→リニア・鉄道館到着後、自由見学→帰着



愛知のチカラ体感セミナー



[ものづくりコース]

④ パチンコミュージアム正村資料館

名古屋発祥のエンターテインメント「パチンコ」のルーツを体感。

- ◇参加者31名
- ◇「一般非公開、パチンコ機工場見学」
- ◇パチンコの基礎である「正村ゲージ」を開発し、戦後日本にパチンコブームを起こした、現代パチンコの生みの親「正村竹一氏」の記念資料館。彼が使用した道具、資料が展示してある一般非公開の資料館を見学しました。また、最新のパチンコを生み出す工場の見学も同時実施し、パチンコ産業の過去から現在に至るまでをご体感頂きました。特に好評だったのは、実際のハンドルが回せる正村ゲージの展示。
- ◇天白工場に到着後、VTR鑑賞→パチンコミュージアム正村資料館/天白工場(2班に分かれて見学)→国際デザインセンター着(アド・ミュージアム名古屋見学)→サンシャインサカエ着→帰着



[ものがたりコース]

⑤ 徳川美術館・徳川園

尾張徳川、荘厳たる歴史と趣を体感。

- ◇参加者131名
- ◇「尾張徳川、荘厳たる歴史と趣を体感」
- ◇徳川家康の貴重な遺品を中心に「大名道具」一万点以上収蔵する国内随一の歴史美術館を見学するコース。四辻館長からの展示物の特別解説・講座からはじまり、国宝9点、重要文化財59点などに代表される館内を自由に見学頂きました。天候にも恵まれ、隣接される庭園、徳川園で自由に散策される参加者も多く、歴史に触れ、日本庭園で季節の花々に触れ、日本人として贅沢な時間をお過ごし頂きました。特に好評だった展示は、春季特別展「将軍からのおくりもの」と題した祝いの品の企画展でした。
- ◇徳川美術館に到着後、四辻館長による特別解説・講座→徳川美術館および徳川園を自由見学→帰着



[ものがたりコース]

⑥ 名古屋城本丸御殿・名古屋城能楽堂

蘇った本丸御殿、匠の技と伝統文化を体感。

- ◇参加者91名
- ◇「蘇った本丸御殿、名古屋伝統文化を体感」
- ◇能楽師狂言方、十四世・野村又三郎氏による狂言講座を開催。また、戦災で焼失後、再建された天守を含む名古屋城本丸御殿の見学を実施。現在、名古屋城本丸御殿の復元工事が進んでおり、「玄関と表書院」と「素屋根」が期間限定で復元工事現場を見学頂きました。特に見学者に好評であったのは、「狂言講座」。総木曾檜造りの能楽堂にて、本格狂言を実施。又三郎氏による解説で狂言の構成や起源を説明。伝統文化の一端にも触れて頂きました。
- ◇名古屋能楽堂到着後、野村又三郎氏による狂言特別教室→名古屋城紹介DVD鑑賞→名古屋城レクチャー→名古屋城本丸御殿へ移動→名古屋城本丸御殿見学後、自由見学



[ものがたりコース]

⑦ 名古屋市科学館

世界最大のプラネタリウムと科学の世界を体感。

- ◇参加者定員200名
- ◇「世界最大のプラネタリム鑑賞!」
- ◇ギネス世界記録に認定された内径35mの世界最大のプラネタリウムドームと約250個の科学の世界を体感できる展示の名古屋市科学館を見学。特に、プラネタリウム「Brother Earth」では、限りなく本物に近い星空をお楽しみ頂きました。星空鑑賞での生ナレーションはとても心地よく、セミナーのお疲れも手伝い、お休みになる方々も。プラネタリウム後は、自由見学や散策。限られた時間の中で、屋外の自然の溢れる公園でお休みになる方、館内の数多くの展示に触れる方、特別展の大恐竜展に訪れる方など、様々な楽しみ方で名古屋科学館コースを体感頂きました。
- ◇名古屋市科学館到着後、レクチャー→プラネタリウム鑑賞→名古屋市科学館(自由見学)→帰着



懇親会



懇親会メイン会場「那古の間」入り口でお出迎え



懇親会場では皆さまに親睦を深めて頂きました



懇親会には1,000名ものご参加者にお越し頂きました



おもてなし屋台「夏目屋」



おもてなし屋台「立花屋」



“名古屋おもてなし武将隊”と“あいち戦国姫隊”が会場を盛り上げました



地酒コーナーでは愛知の名酒12種類を飲み比べて頂きました



懇親会場にもお土産コーナーをご用意



愛知・三重の名物や特産品をお土産としてお買い求め頂きました



2階の「なごやめしコーナー」では名古屋のご当地グルメをご堪能頂きました



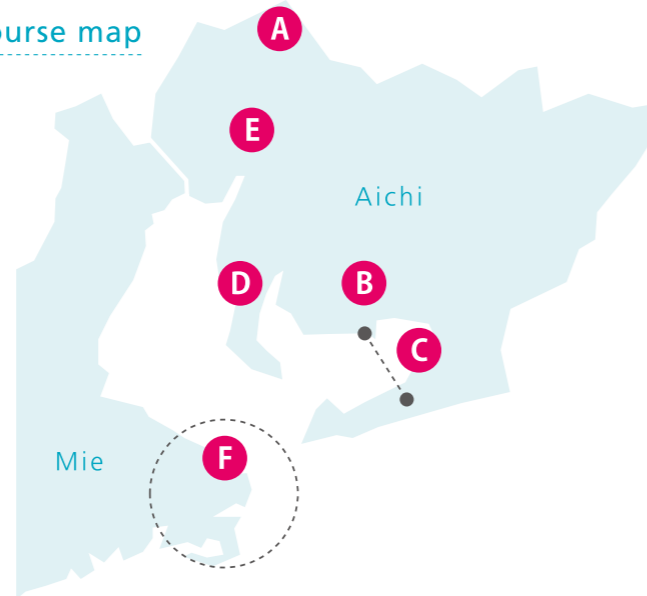
ひつまぶしの名店「あつた蓬莱軒本店」の味もお楽しみ頂きました

■なごやめしコーナー（名古屋観光ホテル2階「曙の間」）
協力：あつた蓬莱軒本店、寿がきや、Sugakiya、スパゲティ・ヨコイ、世界の山ちゃん、千寿、天使の雪、矢場とん（50音順）

見学会 【参加者合計:136名】

自動車・航空宇宙産業や陶磁器産業など世界に誇る“ものづくりの地”であるとともに、尾張徳川家に育まれた雅な文化が息づく“ものがたりの地”でもある愛知・名古屋。その周辺地域まで視野を広げてご用意した日帰りコース(5つ)と1泊2日コース(1つ)に対して総勢136名のご参加を頂き、愛知・名古屋周辺の「ものづくり」「ものがたり」を存分に体験して頂きました。

Course map



- A** <犬山>
明治浪漫と国宝城を巡るコース
- B** <岡崎>
天下人・徳川家康の足跡と三河の文化を辿るコース
- C** <蒲郡>
三河湾ミニクルーズと
トヨタ自動車生産拠点を訪ねるコース
- D** <有松・鳴海と知多半島>
伝統の匠の技・知多半島の味を巡るコース
- E** <名古屋>
ナゴヤ時代絵巻と「トヨタ」のルーツを巡るコース
- F** <三重>
憧れの志摩観光ホテルと「お伊勢さん」を巡るコース

A <犬山> 明治浪漫と 国宝城を巡るコース

明治時代の貴重な建造物を保存・展示する「博物館明治村」では学芸員の解説を受けながらのご見学。「帝国ホテル」、「呉服座」、「小熊写真館」などでは通常ご見学頂ける施設とともに一般非公開のバックヤードもご見学頂き、当時の雰囲気を存分に体感して頂きました。また、木曾川のほとりの山上に佇む日本最古の天守閣「国宝犬山城」では、犬山市観光協会による説明を聞きながら風情と絶景をお楽しみ頂きました。



犬山城



博物館明治村「呉服座」

B <岡崎> 天下人・徳川家康の足跡と 三河の文化を辿るコース

2015年に没後400年を迎える家康公の生誕地「岡崎城」ではグレート家康公「葵」武将隊の大迫力のパフォーマンスをご鑑賞。「家康館」では家康と三河武士へのご理解を深めて頂きました。また、徳川家の菩提寺である「大樹寺」では日本で唯一となる歴代将軍等身大の御位牌をご覧頂きました。「カクキュー八丁味噌の郷」では愛知の食文化の原点である八丁味噌工場のご見学とともに、味噌汁の飲み比べをお楽しみ頂きました。



カクキュー八丁味噌の郷



大樹寺

C <蒲郡> 三河湾ミニクルーズと トヨタ自動車生産拠点を訪ねるコース

トヨタ自動車の生産拠点のひとつである「田原工場」でランドクルーザーの生産ラインをご見学の際は、周遊船「スナメリ号」で陽春の三河湾をミニクルージング。中部財界により設立された全寮制学校「海陽学園」では次世代リーダーの育成現場をご視察頂きました。また、愛知県下最大級のレジャー施設として年間を通じて様々な催し物が実施されている「ラグーナ蒲郡」もお楽しみ頂きました。



海陽学園

E <名古屋> ナゴヤ時代絵巻と 「トヨタ」のルーツを巡るコース

「名古屋城」では武将隊のお出迎えのもと、天守閣の他復元された「本丸御殿」の玄関と表書院や期間限定でしか公開されない「西北隅櫓」を特別にご見学。ご昼食では全国にその名を知られるひつまぶしの銘店「あつた蓬葉軒本店」で名古屋名物「ひつまぶし」に舌鼓。また、三種の神器の一つ・草薙神剣を祀る「熱田神宮」では特別参拝を体験して頂きました。「産業技術記念館」では「トヨタ」のルーツを紹介する展示の数々をご観覧頂きました。



産業技術記念館

D <有松・鳴海と知多半島> 伝統の匠の技と 知多半島の味を巡るコース

江戸時代の風情を今に残す有松の街並み散策と、国の伝統工芸品「有松・鳴海絞り」を今に伝える「有松・鳴海絞会館」をご見学。知多半島では国産「酒の文化館」で酒づくりの歴史や製造工程ジオラマのご観覧と国産自慢の銘酒をご試飲。昼食は「まるは食堂」にて、知多半島名物茹たこ料理をご堪能頂きました。また、常滑焼の生産地としてギャラリーなどが建ち並ぶ「やきもの散歩道」では「登窯」や「土管坂」などの見所をご観覧頂きました。



国産「酒の文化館」

F <三重> 憧れの志摩観光ホテルと 「お伊勢さん」を巡るコース

一日目は2013年に式年遷宮を迎えた「伊勢神宮」の外宮・内宮での特別参拝をはじめ夫婦岩で知られる「二見浦」や「興玉神社」をご観覧頂き、ご宿泊は映画の舞台としても有名な「志摩観光ホテル」でお過ごし頂きました。二日目は真珠のミキモト創業者の御木本幸吉氏が晩年を過ごした邸宅である一般非公開の「真寿閣」にて幸吉氏のこだわりを細部にわたってご観覧頂き、世界で初めて真珠の養殖に成功した「ミキモト真珠島」では真珠養殖を支えた海女の実演を特別室からご観覧頂きました。



伊勢神宮「内宮」

懇親ゴルフ会 【参加:133名】

今年で第55回を迎えた民間最古のゴルフトーナメント“中日クラウンズ”。今年の大会終了から僅か11日後に「名古屋ゴルフ倶楽部 和合コース」にて開催された懇親ゴルフ会。絶好のコンディションのなか、30組118名ものご参加者がクラウンズの熱気冷めやらぬ“和合”でのプレーを楽しみました。また、抽選の結果「和合」でプレーして頂けなかった4組15名のご参加者には“コカ・コーラ東海クラシック”の開催で知られる「三好カントリー倶楽部」の西コースをご用意し、別会場での懇親ゴルフ会をお楽しみ頂きました。



[和合] スタートホールでの記念撮影



[和合] 名物 17番ホール



[三好] 名物 8番ホール



あの日、あの時、時代を創った広告たち。

第62回全日本広告連盟名古屋大会特別イベント

アド・ミュージアム名古屋

変わりゆく時代の空気を感じ取り、あらゆるアプローチで心情に訴える広告。

JAC制作「TVC M500選」、アド・ミュージアム東京「日本のCMぜんぶ」展より

1950年代からの名作CMや、当時のエポック的な新聞広告などを集め、

名古屋で過去最大規模となる広告展示会を開催しました。

愛知のチカラ体感セミナーの「ものがたりコース」の

訪問先としてはもちろん、

一般市民や学生など大勢の方が来場し、話題を集めました。

■期 日：平成26年5月14日(水)～18日(日)

■会 場：ナディアパーク国際デザインセンター

3階デザインホール(名古屋市中区栄3-18-1)

■総来場者：2,062名

■主 催：第62回全日本広告連盟名古屋大会組織委員会、
公益社団法人 全日本広告連盟

■共 催：一般社団法人 愛知広告協会

■協 力：一般社団法人 日本アド・コンテンツ制作社連盟(JAC)、
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 / アド・ミュージアム東京



5月15日付 中日新聞朝刊

一般社団法人 愛知広告協会 会員社

広告主

愛知トヨタ自動車(株)
 (株)アラクス
 (株)大須ういろ
 岡谷銅機(株)
 (株)キクチメガネ
 キリンビールマーケティング(株)
 (株)コメ兵
 近藤産興(株)
 サントリーピア&スピリッツ(株)
 (株)ジェイアール東海高島屋
 (株)JTB中部
 敷島製パン(株)
 シヤチハタ(株)
 (株)セントラルパーク
 (株)善都
 (株)大丸松坂屋百貨店松坂屋名古屋店
 (株)ダリヤ
 (株)中京銀行
 中部電力(株)
 中部日本ビルディング(株)
 ティースタイル(株)
 東邦ガス(株)
 トヨタホーム(株)
 長島観光開発(株)
 (株)名古屋観光ホテル
 (株)ナゴヤキャッスル
 (株)名古屋銀行
 名古屋商工会議所
 名古屋鉄道(株)
 名古屋トヨペット(株)
 (株)名古屋三越
 日本メナード化粧品(株)
 ホーユー(株)
 (株)丸栄
 名鉄観光サービス(株)
 (株)名鉄百貨店
 (株)メニコン
 リンナイ(株)

新聞・出版

(株)朝日新聞社名古屋本社
 (株)KADOKAWA
 (株)岐阜新聞名古屋支社
 (株)産経新聞社大阪本社
 (株)静岡新聞社名古屋支社
 信濃毎日新聞(株)名古屋支社
 聖教新聞社中部支社
 (株)宣伝会議中部本部
 (株)中日新聞社
 (株)中部経済新聞社
 (株)名古屋リビング新聞社
 (株)日本経済新聞社名古屋支社
 (株)毎日新聞社中部本社
 (株)読売新聞東京本社中部支社
 (株)流行発信

放送

朝日放送(株)名古屋支社
 (株)エフエム愛知
 関西テレビ放送(株)名古屋支局
 札幌テレビ放送(株)名古屋支局
 (株)サンテレビジョン名古屋支局
 (株)CBCテレビ
 (株)CBCラジオ
 (株)静岡朝日テレビ名古屋支社
 (株)静岡第一テレビ名古屋支局
 (株)ZIP-FM
 信越放送(株)名古屋支社
 中京テレビ放送(株)
 (株)TBSテレビ名古屋支局
 テレビ愛知(株)
 (株)テレビ朝日名古屋支局
 テレビ大阪(株)名古屋支社
 (株)テレビ信州名古屋支社

(株)テレビ東京名古屋支社
 東海テレビ放送(株)
 東海ラジオ放送(株)
 富山テレビ放送(株)名古屋支社
 長野朝日放送(株)名古屋支社
 名古屋テレビ放送(株)
 日本テレビ放送網(株)名古屋支局
 びわ湖放送(株)彦根支社
 (株)フジテレビジョン名古屋支社
 北陸朝日放送(株)名古屋支局
 北海道放送(株)名古屋支社
 (株)毎日放送名古屋支局
 三重テレビ放送(株)
 読売テレビ放送(株)名古屋支局

広告業

(株)アイアド・プラス
 (株)アイアド・エス・ピー・デザイン名古屋支社
 (株)アイアド・キューブ・デザイン
 (株)愛知企画
 (株)アサツディ・ケイ中部支社
 (株)アドテックス
 (株)アド近鉄中部支社
 (株)アド・コクユー
 (株)アド大広名古屋
 アン・クリエーション(株)
 (株)一進社
 (株)一一声社
 ヴィジントラスト(株)
 エーディ(株)
 (株)大手広告中部本社
 (株)Oval Jr.
 (株)オリコム名古屋支社
 (株)ヨコエイト・インターナショナル名古屋支社
 (株)近宣名古屋支社
 (株)ケイズ・スタジオ
 (株)広企プロモーション
 廣告社(株)名古屋支社
 (株)広宣
 (株)三幸企画
 (株)三晃社
 (株)産通名古屋支社
 (株)サンデーフォークプロモーション
 (株)サンフイルド
 (株)サンライズ社名古屋支店
 (株)シー・ウェブ
 (株)ジェイアール東海エージェンシー
 (株)JTBプロモーション
 GENODIA(株)
 (株)進研アド中部支社
 (株)新広総研
 (株)新通名古屋支社
 (株)新東通信
 スターワン(株)
 (株)センミ社
 (株)総合広告
 (株)第一通信名古屋支社
 (株)大広名古屋支社
 (株)中央廣告
 (株)中日アド企画
 (株)中日アドレップ
 (株)中日エージェンシー
 中日興業(株)
 (株)中日総合サービス
 (株)中日ビジュアルセンター
 (株)中部朝日広告
 (株)中部日本広告社
 (株)ディーエーシー
 (株)デルフィス名古屋支社
 (株)電通エージェンシー
 (株)電通中部支社
 (株)電通名鉄コミュニケーションズ
 (株)東海アドエージェンシー
 (株)東急エージェンシー名古屋支社
 (株)東宣
 (株)東通エージェンシー
 (株)ドーマン・アイシー
 (株)名古屋宣興社

(株)ニッセンジャパン
 (株)日東通信
 (株)日本クリエイティブシステム
 (株)日本経済広告社名古屋支社
 (株)日本経済社名古屋支社
 (株)博報堂中部支社
 (株)博報堂DYメディアパートナーズ 中部支社
 (株)万国社
 表示灯(株)
 (株)敏弘社
 (株)富士コミュニケーションズ
 フューシーズ(株)
 (株)ブラド
 プリ・テック(株)
 (株)報広社
 (株)毎日広告社名古屋支社
 (株)都宣弘社
 (株)名起通信社
 (株)名大社
 (株)ユニコム
 (株)読売IS東海支社
 (株)読売エージェンシー東海
 (株)読売広告社名古屋支社
 (株)リクルートコミュニケーションズ

屋外広告

(株)アイセイ社
 (株)カトウスタチオ
 (株)太陽社
 (株)大和工芸
 中電興業(株)
 東海廣告(株)
 長田廣告(株)
 中日本装備(株)
 名古屋クロード(株)
 (株)名古屋電飾

印刷

(株)石田大成社
 中日高速オフセット印刷(株)
 西川コミュニケーションズ(株)

デザイン・技術制作・その他

(株)インパクトたき
 (株)キュー
 (株)キューブ
 (株)シスリーフィルム名古屋支社
 (株)ジャム
 (株)タービン・インタラクティブ
 (株)中部写真プロダクション
 (株)ティーブイエスネクスト
 (株)電通テック名古屋支社
 トーカイテック(株)
 東海テレビ事業(株)
 (株)東海放送会館
 (有)ナカノデザイン事務所
 (株)ビデオリサーチ中部支社
 ユニモール事業(株)

関係団体

コピーライターズクラブ名古屋(CCN)
 中部クリエイターズクラブ
 中部CM合同研究会
 名古屋イラストレーターズクラブ

大会役員・委員

※役職は平成26年5月時点のものです。

大会役職名	団体名・社名・役職名	氏名
大会会長 大会副会長 大会実行委員長 実行副委員長	名古屋商工会議所 会頭 トヨタホーム 代表取締役会長 CBCテレビ 代表取締役会長 中日新聞社 代表取締役副会長 中日新聞社 代表取締役社長 名古屋商工会議所 専務理事	岡谷 篤一 立花 貞司 夏目 和良 大島 寅夫 小出 宣昭 細谷 孝利
特別顧問	愛知県知事 名古屋市長 中部経済連合会 会長 (中部電力 代表取締役会長) 愛知県経営者協会 会長 (豊田通商 代表取締役会長) 中部経済同友会 代表幹事 (ノリタケカンパニーリミテド 代表取締役会長) 中部経済同友会 代表幹事 (東海東京証券 取締役会長最高経営責任者) 中部経済同友会 代表幹事 (ジェイテクト 取締役会長) 名古屋商工会議所 副会頭 (J.フロントリテイリング 代表取締役会長) 名古屋商工会議所 副会頭 (名古屋鉄道 代表取締役社長) 名古屋商工会議所 副会頭 (東邦ガス 代表取締役会長) 名古屋商工会議所 副会頭 (三菱東京UFJ銀行 副頭取) 名古屋商工会議所 副会頭 (リンナイ 代表取締役社長) ジェイアール東海高島屋 代表取締役社長 敷島製パン 代表取締役副社長 シヤチハタ 代表取締役会長 大丸松坂屋百貨店 執行役員松坂屋名古屋店長 中部電力 代表取締役社長 東邦ガス 代表取締役社長 名古屋三越 三越伊勢丹ホールディングス 理事 丸栄 代表取締役社長 名鉄百貨店 代表取締役社長 愛知広告協会 名誉会員 (J.フロントリテイリング 相談役) 愛知広告協会 名誉会員 (中日新聞社 最高顧問)	大村 秀章 河村 たかし 三田 敏雄 清水 順三 種村 均 石田 建昭 新美 篤志 茶村 俊一 山本 垂土 佐伯 卓 小笠原 剛 内藤 弘康 久末 裕史 田中 正樹 舟橋 紳吉郎 加藤 俊樹 水野 明久 安井 香一 佐々木 敏夫 佐極 修二 京 健 岡田 邦彦 大島 宏彦
顧問	朝日新聞社 執行役員名古屋本社代表 中日新聞社 常務取締役 中部経済新聞社 代表取締役社長 日本経済新聞社 専務執行役員名古屋支社代表 毎日新聞社中部本社 常務執行役員中部代表 読売新聞東京本社 執行役員中部支社長 エフエム愛知 代表取締役社長 CBCテレビ 代表取締役社長 CBCラジオ 代表取締役社長 ZIP-FM 代表取締役社長 中京テレビ放送 代表取締役社長 テレビ愛知 代表取締役社長 東海テレビ放送 代表取締役社長 東海ラジオ放送 代表取締役社長 名古屋テレビ放送 代表取締役社長 三晃社 代表取締役会長 新東通信 代表取締役会長 大広 名古屋支社長 電通 常務執行役員中部支社長 電通 顧問 電通名鉄コミュニケーションズ 代表取締役社長 博報堂 中部支社長 博報堂DYMメディアパートナーズ 執行役員中部支社長 東海広告 代表取締役社長 愛知県広告美術業協同組合 理事長 愛知名古屋ディスプレイ協同組合 理事長	横山 宏 佐々木 崇夫 永井 征平 泉 宣道 渡会 文化 尾崎 和典 本多 立太郎 大石 幼一 升家 誠司 稲葉 功 山本 孝義 小谷 勝 内田 優 小畑 耕一 荒木 高伸 川村 悌式 谷 喜久郎 西村 白光 谷 尚樹 阿波 典久 伊藤 淳五 原野 圭司 西川 孝 高橋 公比古 柴田 芳孝 太田 暉
会計監査	中京銀行 取締役営業統括部長 名古屋銀行 取締役営業統括部長	小島 教彰 石井 秀晴

大会役職名	団体名・社名・役職名	氏名
【事務局】		
事務局長 事務局長次長 事務局長補佐 事務局長次長補佐 事務局 事務局	中日新聞社 取締役広告担当兼名古屋本社広告局長 愛知広告協会 常務理事・事務局長 中日新聞社 広告局営業推進部部長 電通中部支社 メディア局次長 愛知広告協会 愛知広告協会	井戸 義郎 祖父江 治朗 川島 博志 川幡 卓也 細井 浩美 後藤 枝穂
【総務部会】		
部会長 副部会長 委員	ZIP-FM 代表取締役社長 中部電力 執行役員広報部長 中日新聞社 広告局局長 博報堂 中部支社長代理兼営業局長 丸栄 取締役営業本部長 朝日新聞社名古屋本社 広告局長 中部経済新聞社 取締役企画開発局長 テレビ愛知 営業局営業部長 電通名鉄コミュニケーションズ 取締役専務執行役員 西川コミュニケーションズ 常務取締役	稲葉 功 高原 昌宏 飯田 義典 西尾 敏 大場 明 竹内 圭介 恒成 秀洋 酒井 辰行 平下 昌成 太田 啓治
【式典・研究部会】		
部会長 副部会長 委員	電通中部支社 メディア局長 中日新聞社 広告局営業推進部長 新東通信 取締役コーポレート本部長 東海広告 代表取締役常務第三開発事業部長 シヤチハタ 執行役員経営企画担当 名鉄百貨店 営業推進部販売促進担当部長 宣伝会議中部本部 部長代理 朝日新聞社名古屋本社 広告部長 日本経済新聞社名古屋支社 クロスメディア営業部長 名古屋テレビ放送 総合ビジネス局次長 ジェイアール東海エージェンシー 常務取締役	松岡 聡 川島 博志 西井 雅人 高橋 良典 横井 徳人 滝川 敦之 藤塚 健 望月 聡 勝亦 宏幸 野田 実 足立 安博
【懇親・ゴルフ・見学会】		
部会長 副部会長 委員	CBCテレビ 業務総局長 東海ラジオ放送 営業局局長 大広名古屋支社 計画管理局長 ティーブイエスネクスト 代表取締役社長 大丸松坂屋百貨店松坂屋名古屋店 CSR推進室秘書・総務担当スタッフ 東邦ガス リビング企画部マーケティング第2グループマネジャー 読売新聞社東京本社中部支社 広告部長 流行発信 専務取締役 エフエム愛知 取締役営業部長 中日高速オフセット印刷 取締役営業本部長 中日新聞社 広告局営業推進部	林 正治 近藤 雅喜 鈴木 泰昭 鶴見 俊成 奥村 誠史 堀井 睦亮 石井 邦房 和田 康孝 岡本 利彦 加藤 惠三 鶴田 航
【宿泊・送迎部会】		
部会長 副部会長 委員	名鉄観光サービス 取締役総務部長 東海テレビ放送 専務取締役 三晃社 取締役制作本部長 博報堂 中部支社長 JTB中部 MICE事業部営業担当課長 敷島製パン マーケティング部部長 名古屋三越 営業本部営業政策部担当課長 名鉄観光サービス名古屋伏見支店 副支店長 KADOKAWA 総合広告本部メディアソリューション局東海エリア課課長 毎日新聞社中部本社 広告部長 中京テレビ放送 営業局営業推進部副部長 中日新聞社 広告局営業推進部次長	柳川 淳 河合 信明 松良 宗夫 原野 圭司 国政 雄至 石橋 徹 前田 努 岩田 寧伸 井澤 英史 佐藤 秀裕 西尾 茂 杉田 幸司

(敬称略)

大会記念品紹介



<記念品>

- ◇小原和紙・うちわ
(手づくりの工芸品/写真左)
 - ◇シャチハタネームペン
(提供:シャチハタ(株)/写真右)
- 上記2つの記念品とともに、大会プログラム、登録者名簿、総会報告書が配布されました。



小原和紙・うちわ



シャチハタネームペン

ピンバッジ・缶バッジ

- ◇ピンバッジは、愛知広告協会加盟会員によるPRグッズとして活用、缶バッジは、懇親ゴルフ会参加者や、記念講演聴講者への記念品として活用いたしました。



ピンバッジ・缶バッジ

陣羽織

- ◇式典会場や懇親会会場、宿泊ホテルでの歓迎スタッフのウェアとして、また、第61回の青森大会でのPR活動の場でも活用されました。



陣羽織

登録者証とスタッフ証

- ◇過去大会の同種のものよりも大きくし、さらに在籍社名を入れることで有用性を高めました。スタッフ証は、社名・氏名記載のもの、汎用性のあるものが用意されました。



登録者証・スタッフ証

協賛

(株)朝日新聞社名古屋本社, (株)エフエム愛知, (株)三晃社, (株)産通名古屋支社, (株)CBCテレビ, (株)CBCラジオ, (株)ZIP-FM, シャチハタ(株), (株)新東通信, (税法)あおば会計事務所, (株)総合広告, (株)大広名古屋支社, 中京テレビ放送(株), (株)中日アド企画, (株)中日アドレップ, (株)中日エージェンシー, 中日高速オフセット印刷(株), (株)中日新聞社, (株)中部経済新聞社, (株)中部日本広告社, テレビ愛知(株), (株)電通中部支社, (株)電通テック名古屋支社, (株)電通名鉄コミュニケーションズ, 東海広告(株), 東海テレビ放送(株), 東海ラジオ放送(株), 名古屋テレビ放送(株), (株)日本経済新聞社名古屋支社, (株)博報堂中部支社, (株)博報堂DYメディアパートナーズ中部支社, (株)毎日新聞社中部本社, 三重テレビ放送(株), (株)読売新聞東京本社中部支社(50音順)

協力

愛知県, (公財)名古屋観光コンベンションビューロー, (一社)石田流華道会, 愛知室内オーケストラ, 名古屋少女少女合唱団



全広連名古屋大会を終えて

第62回全日本広告連盟名古屋大会組織委員会
実行委員長 大島 寅夫

まずもって、第62回全日本広告連盟名古屋大会にご参加頂いた全国の広告協会会員社の方々に御礼を申し上げます。大会登録者1,300人、一般参加者300人の合計1,600人の方々にご参加頂いたことは主催者の一人として感激であり、皆様のご協力に感謝の意を表したいと思います。

平成23年に名古屋大会の誘致を愛知広告協会会員社様にご検討して頂きました。デフレスパイラルの真っ最中、曙光の見えない時期でした。3年後になる大会は経済情勢や広告業界の厳しい環境も予想されましたが、協会会員社様から「愛知・名古屋をアピールするチャンス」と強いご支持を得ました。そして、24年1月から事務局設立準備を始め、大会開催まで2年半の道のりがスタートしました。

「日本ど真ん中」の愛知・名古屋は交通至便なだけに、とすれば日帰りでの参加も可能な立地条件です。そのためにいかに魅力あるプログラムを作るかに実行委員会は腐心いたしました。午後からの「愛知のチカラ体感セミナー」は、一般非公開の訪問先には大会趣旨をご説明し、見学許可を頂く。一般公開されている訪問先では特別にご配慮をお願いしました。見学会や懇親ゴルフ会も同様に、全国からご参加される皆様に最高のおもてなしができるように準備をいたしました。また、記念講演には地元を代表し、全国区の著名な方であるトヨタ自動車名誉会長の張富士夫氏にお願いできたことが、参加者、一般参加者の動員により拍車をかけました。

大会閉会后、全国の参加者様からたくさんのお礼状を頂戴しました。式典、記念講演、愛知のチカラ体感セミナー、懇親会、見学会や懇親ゴルフ会まで高いご評価を頂きました。過去最高の参加者と皆様の印象に残る大会プログラムにより名古屋大会は「記録にも、記憶にも残る全広連大会」にできたのではないかと考えています。

これもひとえに大会参加者の皆様のご厚誼と大会成功にご尽力頂いた全広連、大会実行委員会の皆様のご協力の賜物と思います。紙面をお借りしまして、厚く、深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

第62回全日本広告連盟名古屋大会 参加者数および運営協力スタッフ数

- 大会参加者総数：1,600名<大会登録者数：1,300名 一般参加者：300名>
 - ・5月14日／愛知のチカラ体感セミナー参加者(全8コース)：977名
 - 懇親会参加者：1,000名
 - ・5月15～16日／見学会参加者(全6コース)：136名
 - ・5月15日／懇親ゴルフ会参加者(全2コース)：34組133名
- アド・ミュージアム名古屋(5月14～18日) 一般総入場者：2,062名
- 会員社運営協力スタッフ(大会期間中) のべ320名